

## 鐘崎漁港整備事業 遺産影響評価書

鐘崎漁港整備事業は、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群のバッファゾーンで実施される既存漁港の拡張工事である。本事業は、資産の歴史的・文化的価値及び資産の景観に負の影響を与えるものではなく、本遺産群の顕著な普遍的価値及びその属性におよぼす負の影響はない。

### 1. 概要

- 本文書は、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群のバッファゾーン内に位置する鐘崎漁港の整備事業を対象として、宗像市が作成した遺産影響評価書である。
- 鐘崎漁港整備事業は、ICOMOS 評価書において、遺産影響評価を実施した上で、工事着手前に評価結果を世界遺産委員会に提出することが望ましい旨<sup>1</sup>、指摘された。また、世界遺産委員会決議(Draft Decision:41COM 8B.19\_4e)<sup>2</sup>では、顕著な普遍的価値及び資産の属性に影響を与える可能性のある事業計画について、遺産影響評価を行う必要がある旨、勧告された。
- 鐘崎漁港整備事業は、宗像市が 2002 年から 2022 年にかけて実施している漁港の拡張工事である。未着手事業の内、規模が大きく、景観に与える影響が懸念される荷捌き所の建設が、2019 年8月から予定されている。そのため、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会は、学識経験者で構成される専門家会議等による検討を経て、本整備事業が遺産に与える影響を以下のように評価した。
- 鐘崎漁港整備事業は、本資産の顕著な普遍的価値の5属性の内、属性2「沖ノ島への崇拜が島の神聖性を維持してきたことを示す証拠」の「九州及び大島から沖ノ島に向けた眺望」という特徴に関係するものの、九州本土から沖ノ島方向に向けた眺望景観を阻害するものではないことから、属性に与える影響はない。
- 工事予定地において、古代及び歴史的な港や祭祀に関する考古学的遺構は確認されていないことから、資産の歴史的・文化的価値に与える影響はない。
- 建設が予定されている荷捌き所は建物の高さや色彩が景観に配慮した設計となっている。
- 今回の整備事業は、地域の基幹産業である漁業の持続的発展に貢献するものであり、資産の価値である「現在に続く文化的伝統」に正の影響を与えるものである。
- 以上のことから、今回の鐘崎漁港整備事業は、本遺産群の顕著な普遍的価値及びその属性に負の影響を与えるものではない。

<sup>1</sup> 「締約国で最も重要な開発プロジェクトは、宗像市の鐘崎漁港の改修と新しい太陽光発電施設の建設である。ICOMOS は、これらのプロジェクトについての遺産影響評価を実施し、最終的な実施の決定をする前に評価結果を世界遺産委員会に提出することが望ましいと考える。」

<sup>2</sup> 「4. 締約国が以下を考慮するよう勧告する。

e) 顕著な普遍的価値および資産の属性に影響を与える可能性のある事業計画について特定の遺産影響評価を行い、計画の承認と実施に関して最終決定が下される前に世界遺産委員会と ICOMOS にその結果を提出すること。」

## 2. 目次

1. 概要	・・・1
2. 目次	・・・2
3. イントロダクション	・・・2
4. 遺産の価値と保存管理方法	・・・3
5. 開発事業の概要	・・・5
6. 開発・改変事案による影響の評価	・・・6
7. 検討のプロセス	・・・7
8. 結論	・・・8
9. 参考文献一覧	・・・8
10. 図面及び写真	・・・8
図1 位置図	・・・9
図2 鐘崎漁港整備地	・・・10
図3 沖ノ島可視範囲図	・・・11
図4 湯川山山頂から沖ノ島方向	・・・12
図5 施工予定箇所	・・・12
図6 鐘崎漁港整備計画平面図	・・・13
図7 荷捌き所平面図・立面図	・・・14
図8 鐘崎漁港整備事業完成予想 CG	・・・15

## 3. イントロダクション

### 1) 名称

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

### 2) 構成資産と座標

ID No.	名称	所在地	座標	資産範囲 面積(ha)	緩衝地帯面積(ha)	
					陸域	海域
1	沖ノ島	宗像市大島	北緯 4度 14分 42秒 東経 130度 6分 20秒	68.38	717.23	75,068.36
2	小屋島	宗像市大島	北緯 34度 13分 53秒 東経 130度 6分 42秒	1.89		
3	御門柱	宗像市大島	北緯 34度 13分 54秒 東経 130度 6分 50秒	0.15		
4	天狗岩	宗像市大島	北緯 34度 13分 56秒 東経 130度 6分 51秒	0.19		
5	宗像大社 沖津宮遙拝所	宗像市大島	北緯 33度 54分 32秒 東経 130度 25分 41秒	0.24	3,577.89	
6	宗像大社中津宮	宗像市大島	北緯 33度 53分 50秒 東経 130度 25分 54秒	1.50		
7	宗像大社辺津宮	宗像市田島	北緯 33度 49分 47秒 東経 130度 30分 51秒	11.27		
8	新原・奴山古墳群	福津市勝浦	北緯 33度 49分 03秒 東経 130度 29分 10秒	15.31		
合計 (ha)				98.93		79,363.48

### 3) 影響をうける構成資産

- ・なし

### 4) 遺産影響評価に使用した情報

- ・日本国(2016)  
『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産一覧表への記載推薦書』
- ・福岡県、宗像市、福津市(2016)  
『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群包括的保存管理計画』

### 5) 遺産影響評価書作成者

- ・宗像市

### 6) 遺産影響評価主体

- ・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

## 4. 遺産の価値と保存管理方法

### 1) 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の顕著な普遍的価値

九州北岸から 60km に位置する沖ノ島は、古代祭祀遺跡の類い希な記録の宝庫であり、日本列島と朝鮮半島及びアジア大陸の諸国間の活発な交流の時期にあたる4世紀に起こり9世紀末まで続いた、航海安全に関わる古代祭祀のあり方を示す物証である。宗像大社の一部となり、沖ノ島はその後も今日まで神聖な存在とされてきた。

沖ノ島全体が、地形学的な特徴と、豊富な考古学的堆積がある祭祀遺跡、そして原位置を保ったままの膨大な数の奉獻品とともに、この島で行われた 500 年にわたる祭祀のあり方を如実に示している。原始林、小屋島・御門柱・天狗岩といった付随する岩礁、文書に記録された奉獻行為、島にまつわる禁忌、九州及び大島から沖ノ島に開けた眺望、これらはみな、対外交流や信仰の独自性の高まりによってその後何世紀もの間に信仰の行為や意味が変容したにもかかわらず、沖ノ島への崇拜が島の神聖性を維持してきたことを如実に示している。

宗像大社は、約 60km に広がる範囲に位置する三つの離れた信仰の場、沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、九州本島の辺津宮から構成される神社である。これらは古代祭祀遺跡に関連づけられる生きた信仰の場である。宗像三女神に対する崇拜の形態は、主に社殿において行われる祭祀において今日まで引き継がれ、宗像地域の人々によって守られてきた。大島の北岸に建てられた沖津宮遙拝所は、「神宿る島」を遠くから拝むための信仰の場として機能している。沖ノ島へと続く海を見渡す台地上に位置する新原・奴山古墳群は大小の墳丘によって構成され、沖ノ島を崇拜する伝統を育んだ宗像氏の人々の存在を証明する。

(世界遺産委員会決議の顕著な普遍的価値の言明の抜粋)

## 2) 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の顕著な普遍的価値の属性

属性1	属性2	属性3	属性4	属性5
500年にわたる祭祀のあり方を如実に示す証拠	沖ノ島への崇拝が島の神聖性を維持してきたことを示す証拠	宗像三女伸への崇拝が古代から今日まで守られてきた証拠	「神宿る島」を遠くから拝む遥拝の場	沖ノ島を崇拝する伝統を育んだ宗像氏の存在
構成資産	構成資産	構成資産	構成資産	構成資産
沖ノ島	沖ノ島 小屋島 御門柱 天狗岩	宗像大社 沖津宮 中津宮 辺津宮	沖津宮遥拝所	新原・奴山古墳群
特徴	特徴	特徴	特徴	特徴
<ul style="list-style-type: none"> <li>地形学的な特徴。</li> <li>豊富な考古学的堆積がある祭祀遺跡。</li> <li>膨大な数の奉獻品。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原始林。</li> <li>付随する岩礁である小屋島、御門柱、天狗岩。</li> <li>文書に記録された奉獻行為。</li> <li>島にまつわる禁忌。</li> <li>九州及び大島から沖ノ島に開けた眺望。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約60kmに広がる範囲に位置する3つの離れた信仰の場。</li> <li>古代祭祀遺跡に関連づけられる生きた崇拝の場。</li> <li>社殿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖ノ島を遠くから拝む、大島の北岸に建てられた遥拝の場。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖ノ島へと続く海を見渡す台地上に位置する古墳群。</li> <li>大小の墳丘。</li> </ul>

※鐘崎漁港から沖ノ島は見えないが、その立地は属性2「沖ノ島への崇拝が島の神聖性を維持してきたことを示す証拠」の特徴「九州及び大島から沖ノ島に開けた眺望」に関係する。

## 3) 緩衝地帯の設定及び保存管理方法

### ・ 緩衝地帯の設定 (p.59)

資産の顕著な普遍的価値への負の影響を未然に防ぐため、構成資産の周辺に緩衝地帯を設定する。緩衝地帯の設定にあたっては、以下3点を基本的な考え方とし、個々の構成資産から視認可能となる周囲の海域、丘陵、河川などの自然地形、行政区界の範囲を考慮しつつ、全ての構成資産を包括する 79,363.48ha の範囲を設定する。

- ①構成資産間及び海への眺望を保全すること
- ②資産と一体となった自然地形、海域、土地利用などの周辺環境を保全すること
- ③資産と密接に関連する遺跡や歴史的、文化的要素が分布する範囲を含むこと

### ・ 大島－九州本土間の管理方針 (p.63)

- ・御嶽山山頂から九州本土側への眺望を保全する。
- ・海への眺望を阻害する洋上構造物を規制する。

### ・ 辺津宮周辺の管理方針 (p.63)

- ・構成資産(辺津宮)周辺の景観を保全する。
- ・辺津宮の下高宮祭祀遺跡から釣川への眺望を保全する。
- ・住民生活に支障をきたさないように調整を図る。

### ・ 緩衝地帯の法的保護 (p.64)

構成資産間をつなぐ道路や港湾、漁港と関連する施設など重要な公共施設を景観法に基づく景観重要公共施設に指定し、整備方針・基準を設けて積極的な景観整備に取り組んでいる。

(『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 包括的保存管理計画』の抜粋)

#### 4) 緩衝地帯と鐘崎の位置関係

この遺産影響評価の対象である鐘崎漁港は、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群のバッファーズーンにおける九州本土北端に位置する。

#### 5) 鐘崎の歴史

鐘崎は、767年に宗形郡大領の宗像朝臣深津が築港の功績を称えられて国家より官位を授かったとの記録(『続日本紀』)が残る場所であり、現在も鐘崎漁港は宗像における漁業の最も重要な拠点となっている。また、現在まで受け継がれる生きた文化的伝統を象徴する「みあれ祭」の海上神幸においても、鐘崎の漁船団は主力として重要な役割を果たしている。海上神幸では、沖津宮の田心姫神と中津宮の湍津姫神を乗せた船を中心とした数百艘もの船が大船団を組んで、辺津宮の市杵島姫神の待つ神湊へ向かう。このように鐘崎は古代から続く宗像地域の人々の海との関わりを物語る場所として重要であり、資産と密接に関連する歴史的、文化的要素を有している(緩衝地帯の設定③に該当)。

#### 6) 鐘崎漁港の景観保護

鐘崎漁港は、宗像市景観計画によって、景観重要漁港に指定されており、漁港内の工作物の新設等については、位置や高さ、形態意匠に対して許可・申請をともなう手続きによって景観規制・誘導がはかられている。

##### 宗像市景観計画

###### ○ 景観重要漁港における許可の基準

景観重要漁港内における工作物の新設等にあたっては、以下の事項に配慮した上で管理者に申請し、許可を受けるものとする。

###### (1) 位置・高さ

・主要な視点場からの眺望景観に影響を与えない位置や規模とする。

###### (2) 形態意匠

・過度な装飾を避け、周辺の自然景観や歴史・文化資源、公共施設と調和した形態意匠とする。  
・周辺景観と調和した落ち着いた色彩を基調とし、経年変化や適切な維持管理に耐えられる素材とする。

#### 5. 開発事業の概要

##### 1) 事業名

鐘崎漁港整備事業

##### 2) 事業主体

宗像市産業振興部水産振興課

##### 3) 事業位置

福岡県宗像市鐘崎

##### 4) 事業期間

・全体の事業期間:2002年～2022年

・荷捌き所建設に係る事業期間:

設 計=2019年8月～2020年3月

工 事=2019年8月～2022年3月

## 5) 事業内容

バッファゾーン内の九州本土北端に位置する鐘崎漁港の拡張工事である。漁船の安全のための防波堤及び護岸、漁港機能向上のための係留施設及び漁港施設用地の整備を行う。なお、今後着工が予定されているのは、荷捌き所建設(陸揚げされた魚を衛生的に仕分けする施設)及びその周辺整備である。

## 6) 荷捌き所建設の目的

鐘崎漁港では、現在、覆屋のない物揚場で魚の陸揚げ作業を行っているため、衛生面及び作業効率に課題がある。そのため、新たに荷捌き所を整備し、水産物の信頼性と安全性の向上及び地元漁業者の労働環境改善を図ることを目的としている。

## 7) 事業規模(今後施工が予定されているもの)

- ① 護岸(L=45m)
- ② 岸壁(L=120m)
- ③ 防風柵(L=200m)
- ④ 道路(L=383m)
- ⑤ 駐車場(A=1,230 m<sup>2</sup>)
- ⑥ 護岸撤去(L=56m)
- ⑦ 荷捌き所(敷地面積=3,390.00 m<sup>2</sup>、建築面積=2,500 m<sup>2</sup>、最高高さ5m)

## 6. 開発・改変事案による影響の評価

- 1) 鐘崎漁港整備事業は、本資産の顕著な普遍的価値の5属性の内、属性2「沖ノ島への崇拜が島の神聖性を維持してきたことを示す証拠」の特徴である「九州及び大島から沖ノ島に開けた眺望」に関係する。しかし、鐘崎漁港から沖ノ島は不可視であり、また、九州本土において沖ノ島に開けた眺望が得られる地点(湯川山山頂)から、鐘崎漁港は視界に入らないため、今回の事業が属性に与える影響はない。
- 2) 鐘崎漁港整備事業の工事予定地において、古代及び歴史的な港や祭祀に関する考古学的遺構及び遺物が確認されていないことから、資産の歴史的・文化的価値に与える影響はない。
- 3) 今後着工が予定されている荷捌き所の建設及び周辺整備は、既存の漁港を改良・補強するものであり、現在の漁港景観を大きく変更するものではない。また、建物の高さは、荷捌き所として必要最小限のものであり、色彩は既存の防波堤と一体化するように明度の低い色を採用している。当該地は、『包括的保存管理計画』で設定した各視

点場からも距離が離れているため、肉眼で開発前後の変化を確認することは困難である。以上のことから、資産の景観に与える影響はない。

- 4) この地域の生活基盤である漁業の継続は、資産の価値である「現在に続く文化的伝統」<sup>3</sup>を支える基盤であり、今回の工事を含む一連の漁港改良は漁業の持続的発展に貢献するものである。
- 5) 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会は、学識経験者で構成される「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群専門家会議等による検討を経て、今回の計画が「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の顕著な普遍的価値及びその属性に与える負の影響はないと評価した。

## 7. 検討のプロセス

### ・ 宗像市景観アドバイザー会議

委員：仲間浩一(景観工学)、日高圭一郎(都市計画)、柴田久(景観工学)、土屋潤(建築)  
日程：2018年 10月23日(火)

### ・ 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群専門家会議 構成資産保存管理部会

委員：西谷正(考古学)、服部英雄(中世史)、河上信行(建築史)、重藤輝行(考古学)  
日程：2018年10月12日(金)、2018年12月13日(木)、2019年2月22日(金)

### ・ 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群専門家会議 緩衝地帯保全部会

委員：杉本正美(造園学)、金田章裕(歴史地理学)、仲間浩一(景観工学)、  
日高圭一郎(都市計画)、大森洋子(都市計画)  
日程：2018年10月12日(金)、2018年12月13日(木)、2019年2月22日(金)

### ・ 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群専門家会議

委員：西谷正(考古学)、佐藤信(古代史)、杉本正美(造園学)、三輪嘉六(考古学)、  
金田章裕(歴史地理学)、稲葉信子(建築史)、岡田保良(建築史)、溝口孝司(考古学)  
日程：2019年3月15日(金)

### ・ 専門家会議による現地協議

委員：西谷正(考古学)、杉本正美(造園学)  
日程：2019年3月28日(木)

### ・ 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群専門家会議

委員：西谷正(考古学)、佐藤信(古代史)、杉本正美(造園学)、三輪嘉六(考古学)、  
金田章裕(歴史地理学)、稲葉信子(建築史)、岡田保良(建築史)、溝口孝司(考古学)  
日程：2019年5月31日(金)

---

<sup>3</sup> 世界遺産委員会決議 (Draft Decision:41COM 8B.19)

基準 (iii)：神聖な島、沖ノ島は古代から現在まで発展し、継承されてきた神聖な島を崇拜する文化的伝統の類い希な例である。

## 8. 結論

今回の鐘崎漁港整備事業は、宗像市が 2002 年から 2022 年にかけて実施している漁港の拡張工事である。未着手事業の内、規模が大きく、景観に与える影響が懸念される荷捌き所建設が 2019 年8月から予定されている。

鐘崎漁港整備事業は、本資産の顕著な普遍的価値の5属性の内、属性2「沖ノ島への崇拝が島の神聖性を維持してきたことを示す証拠」に関係するものの、九州本土から沖ノ島方向に開けた眺望景観を阻害するものではないことから、属性に与える影響はない。

また、今後予定されている荷捌き所建設及び周辺整備工事については、既存の漁港を改良・補強するものであり、現在の漁港景観を大きく変更するものではない。また、荷捌き所の高さや色彩などは景観に配慮した設計となっており、各視点場から開発前後の変化を確認することは困難であることから、今回の工事が資産の景観に与える負の影響もない。

また、工事予定地には、古代及び歴史的な湾や祭祀に関する考古学的遺構は確認されていないため、今回の工事が資産の歴史的・文化的価値に与える負の影響はない。

なお、当該地域の生活基盤である漁業の継続は、資産の価値である現在に続く文化的伝統を支える基盤であり、今回の工事を含む一連の漁港改良は漁業の持続的発展に貢献するものと評価できる。

以上のことから、今回の鐘崎漁港整備事業は、本遺産群の顕著な普遍的価値及びその属性に負の影響を与えるものではない。

## 9. 参考文献一覧

- ・ 日本国(2016)『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産一覧表への記載推薦書』
- ・ 日本国(2016)「追加情報 2016 年 11 月 14 日」Part1-71.80
- ・ 福岡県ほか(2016)『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群包括的保存管理計画』

## 10. 図面及び写真

- 図1 位置図
- 図2 鐘崎漁港整備地
- 図3 沖ノ島可視範囲図
- 図4 湯川山山頂から沖ノ島方向
- 図5 施工予定箇所
- 図6 鐘崎漁港整備計画平面図
- 図7 荷捌き所平面図・立面図
- 図8 鐘崎漁港整備事業完成予想 CG



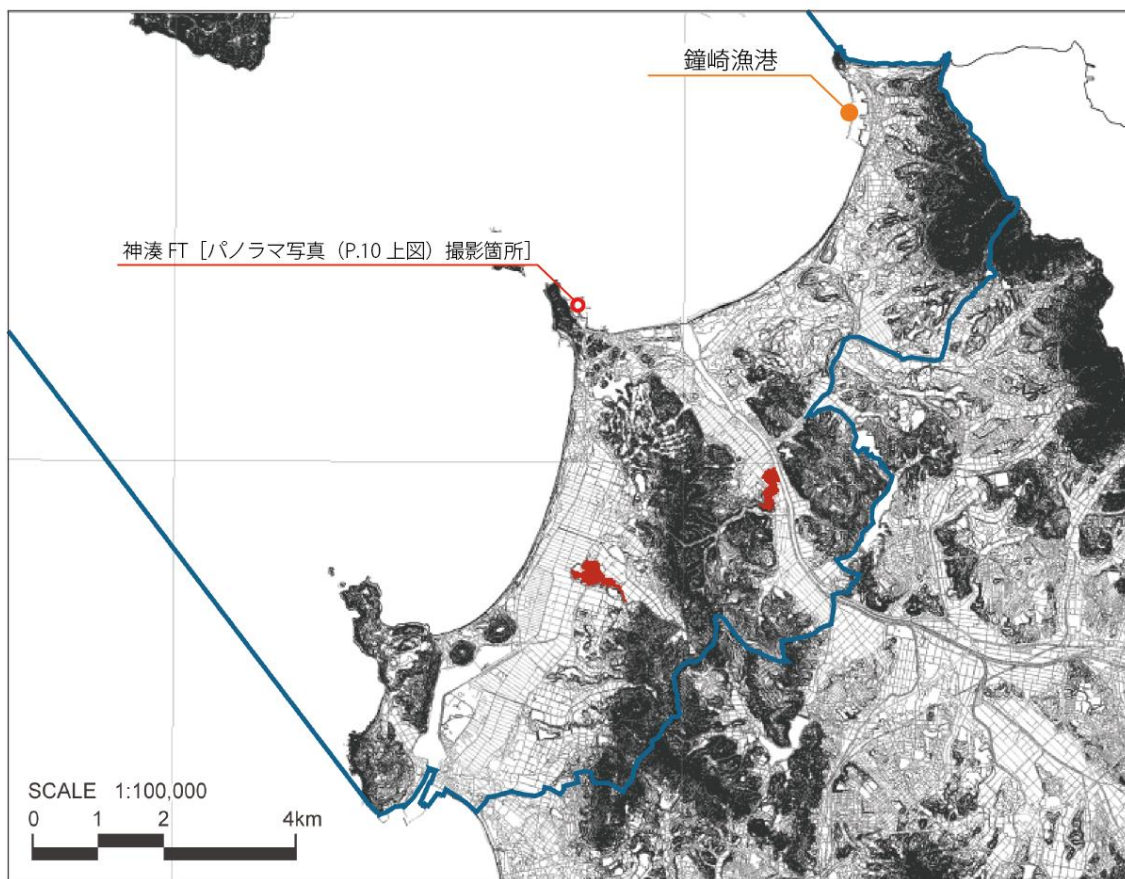
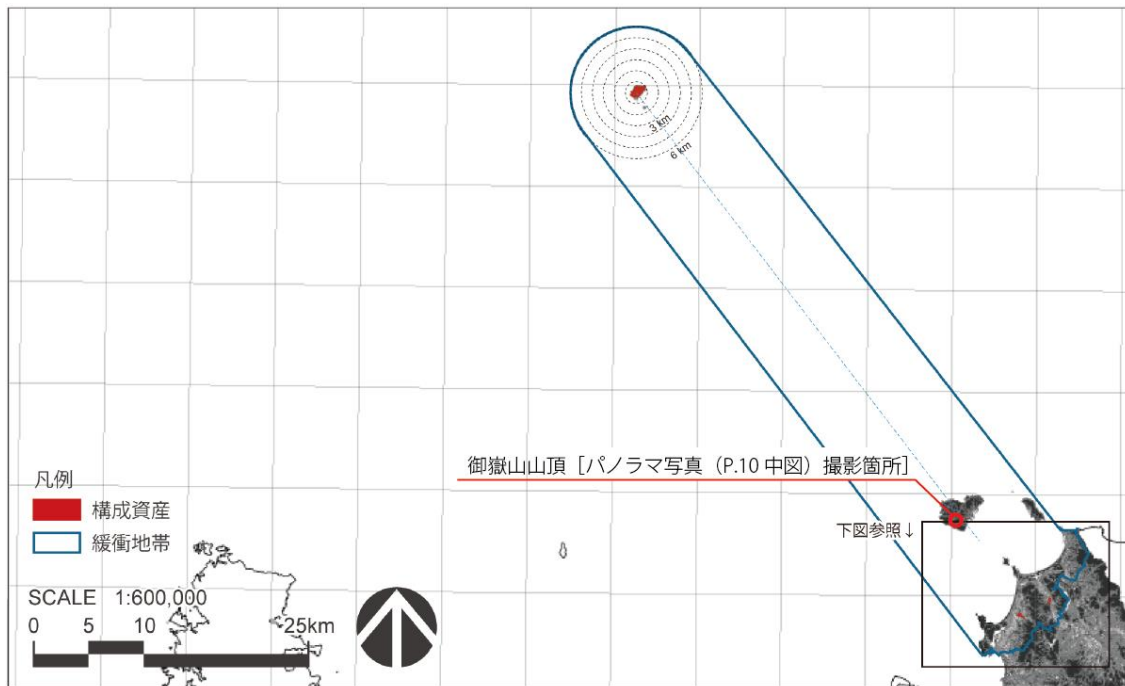
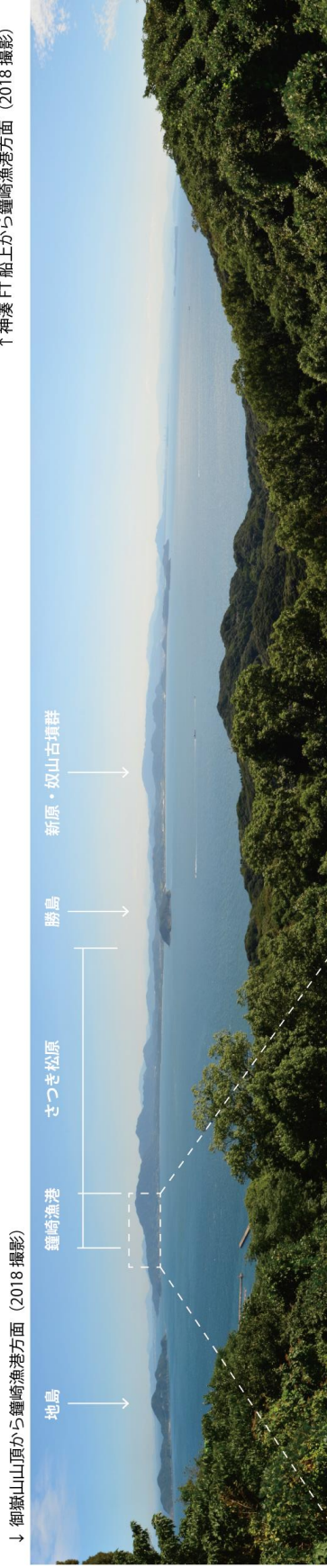


図 1 位置図



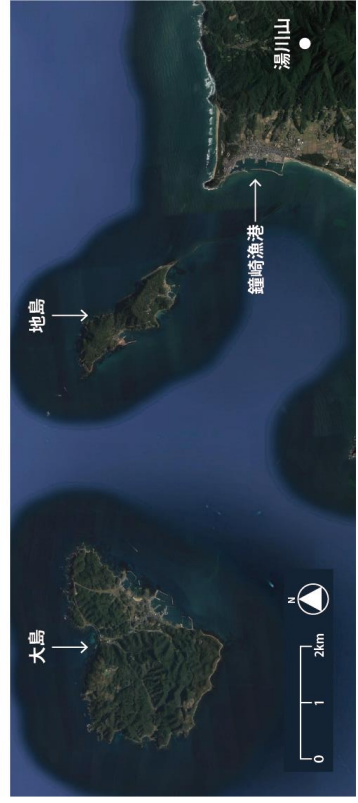
↑神湊 FT 船上から鐘崎漁港方面 (2018 撮影)



↓御嶽山山頂から鐘崎漁港方面 (2018 撮影)



有捌き所整備予定地付近



航空写真 →  
(Google Map)

← 鐘崎漁港部分 (拡大)

図 2 鐘崎漁港整備地





図3 沖ノ島可視範囲図

※沖ノ島の可視範囲を特定するため、標高データをもとに地形を再現し（数値地形モデル）、視認解析図を作成した。本図の可視範囲は、樹木や建物を考慮していないため、実際には樹木等に遮蔽され沖ノ島が見えない場所も可視範囲に含まれる。

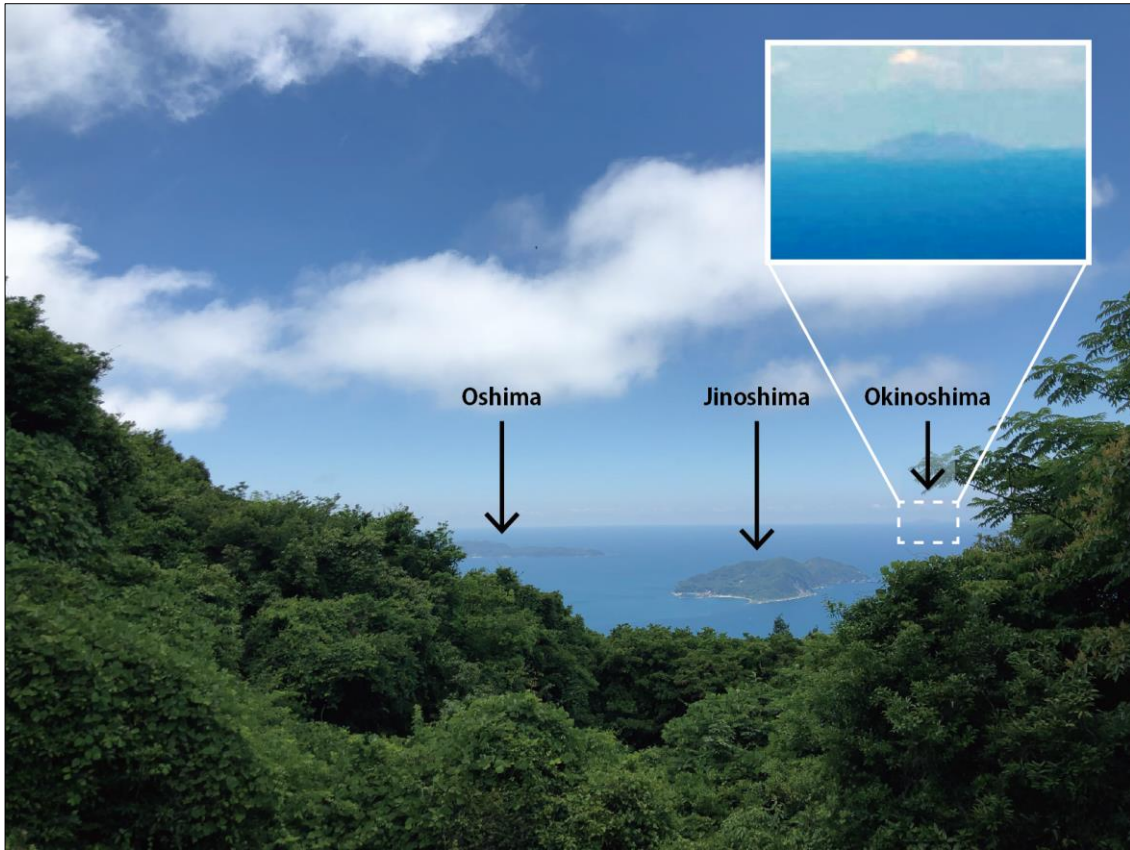


図4 湯川山山頂から沖ノ島方向

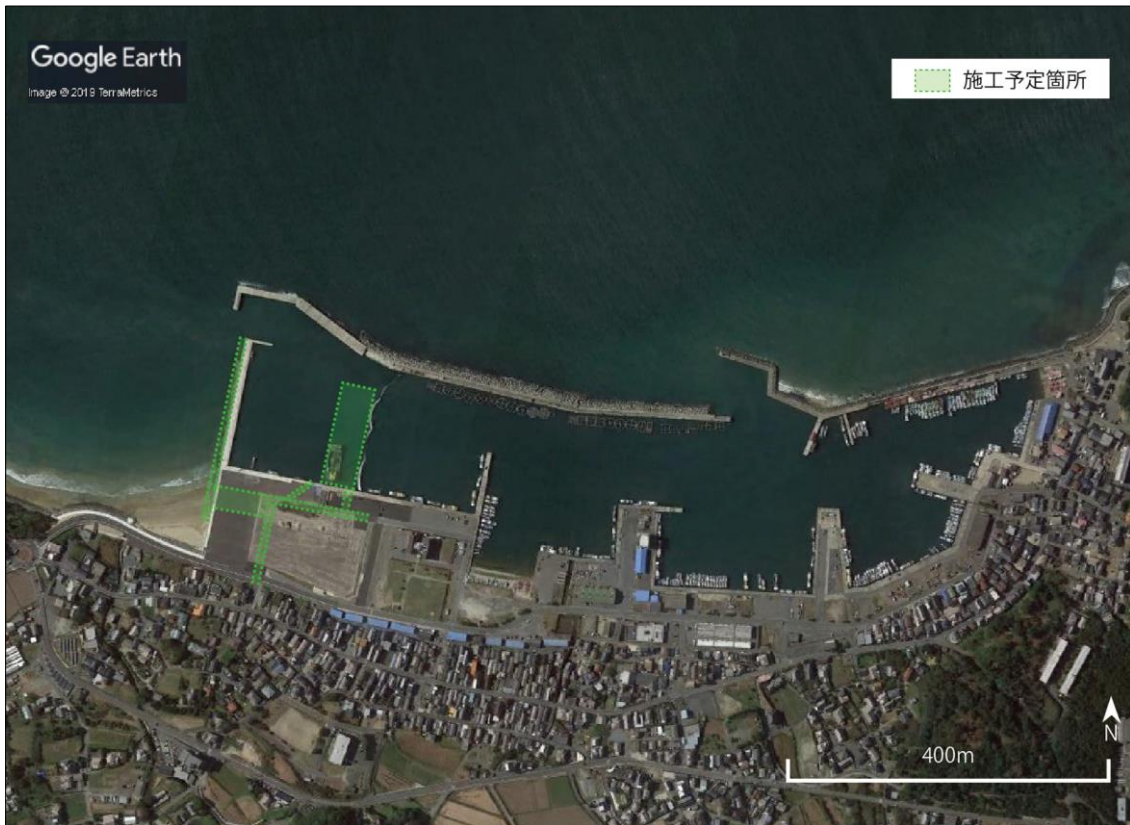


図5 施工予定箇所



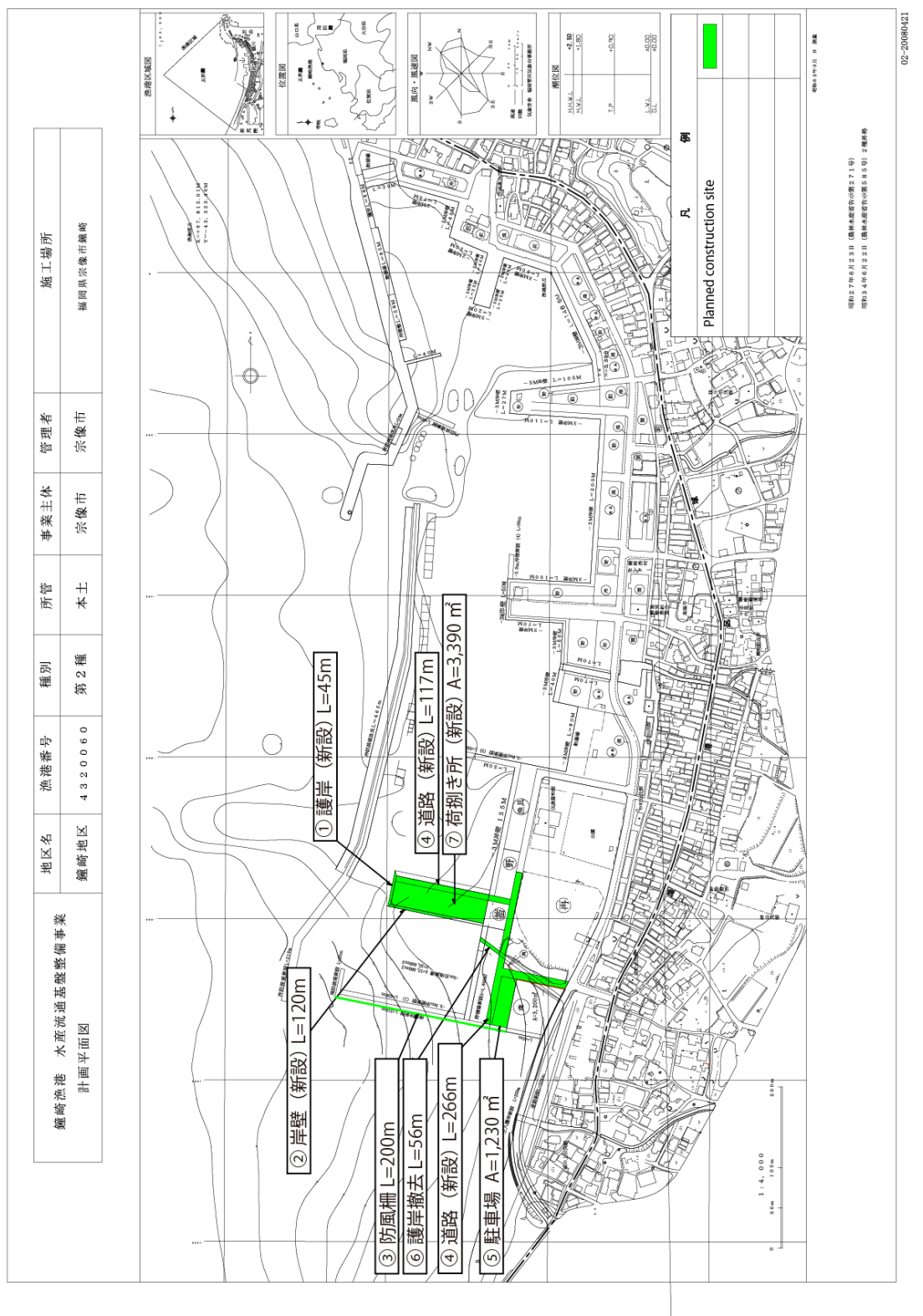


図6 鐘崎漁港整計画平面図

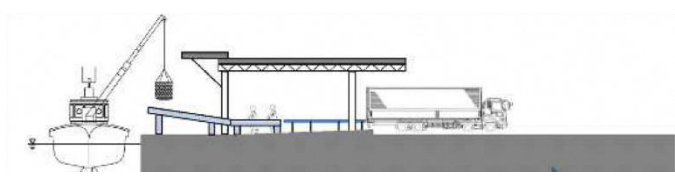
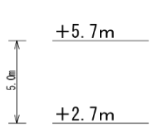
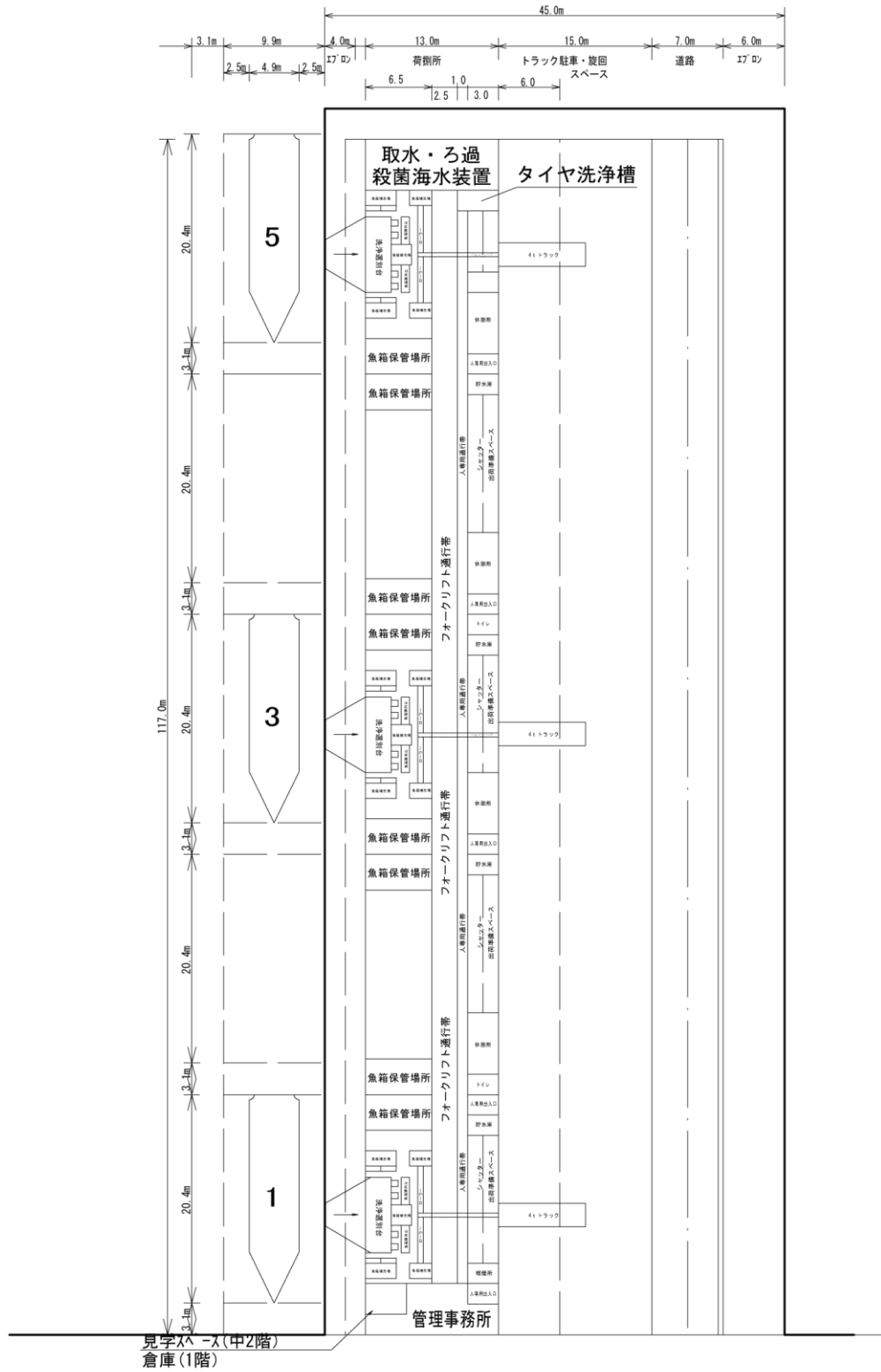


図7 荷捌き所平面図・立面図

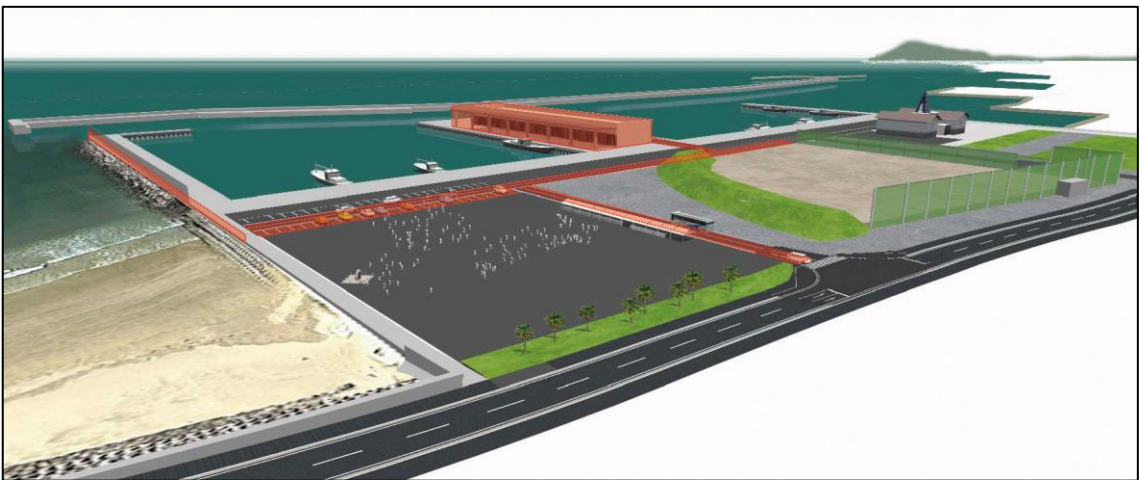


図 8 鐘崎漁港整備事業完成予想 CG (赤色：施工予定箇所)